


新しい時代を迎え、日々音楽に向き合いまい進でできることに大きな幸せを感じております。今回のリサイタルでは、これまでの演奏活動において折に触れ演奏してまいりましたショパンの作品でプログラムを組みました。ショパン自身、時代に翻弄され、まさに激動の生涯を送りました。彼の作品は美しさのみならず、憂いや悲しみに加え、力強く生きるエネルギーにも溢れています。

初夏のさわやかなひととき、皆様と少しの間でも思い出に残る時間を共有できましたら幸いです。

小杉真二

プロフィール

新潟県出身。



国立音楽大学に入学し、故児玉邦夫氏に師事。故H・ピュイグ＝ロジェ氏のレッスンも受ける。3年生の時に、クラウディオ・ソアレス氏と出会い、氏の勧めで大阪芸術大学に編入学し、同大学を首席で卒業。学長賞を受賞。読売新人演奏会に出演。その後、東京で故ジュリア・ガネヴァ、故コンスタンティン・ガネフの両氏に師事。飯塚新人音楽コンクール1位、国際ピアノデュオコンクールグランプリ、PTNA ヤングピアニストコンペティション金賞、マルサラ国際ピアノコンクール（イタリア）入賞ほか、数々のコンクールにおいて上位入賞。在学中より現在に至るまで、各地でのリサイタル、東京交響楽団をはじめとするオーケストラとの共演、ゲーデ・トリオ、ベルリン・フィル八重奏団等との室内楽の共演などのコンサート活動を行っている。また、2012年より南雲竜太郎氏とのピアノデュオのコンサートも各地で行っている。

現在は千葉県船橋市に拠点を置き、コンサート活動の傍らで、船橋市と新潟市において後進の指導にあたっている。